

アジア系月間

5月は、「アジア・太平洋諸島系米国人の文化遺産継承月間」と定められており、毎年全米各地で歴史・教育・文化に関する様々なイベントが開催されている。5月が選ばれたのは、1843年5月7日に初めて日本人移民が米国に到着したこと、また1869年5月10日に大陸横断鉄道が完成したことである。これを記念して、1978年に制定された。ニューヨークでも、この月間に合わせてさまざまなイベントが開催されているが、ニューヨーク市では、この月を祝う意味で地域コミュニティーに貢献しているアジア系市民や団体を市長公邸に招いて表彰している。文化協会では、2004年に市が関係しているイベントを行い、それがきっかけとなり、それ以来市長公邸での祝賀会に毎年招待していただいている。この祝賀会には約1000名ほどの人々が出席しているが、日本人や日本のメディアはほとんど見られない。中国系、韓国系の人々が圧倒的に多く、日本はまだ市のアジア系コミュニティーに入り込んでいない現状を感じさせられる。その中でも文化協会が15年も前からつながりを持ち続けているのは、ありがたいことであり、さらに地域コミュニティーと深いつながりを築いていけるように努めていきたい。



弓削マイケル文化協会長：左とブルームバーグ市長（当時）：右（市長公邸にて）

源氏物語展 - Japan 2019

3月から6月中旬にかけて、ニューヨークのメトロポリタン美術館では、特別展「源氏物語」展が開催された。アメリカ国内や日本から国宝や重要文化財を含む約120点が出品され、日本国外では初めての大規模な源氏物語展と言われている。メトロポリタン美術館によると、会期中約20万人が訪れたとのこと。一つひとつの作品を熱心に見入っている大勢のニュー Yorkerの姿が印象的だった。この企画はニューヨークを中心に全米で行われている「Japan 2019」の公式企画の一つで、メトロポリタン美術館と国際交流基金の共催で行われた。

「Japan 2019」に関連して、在外公館の推薦を受けて行われる民間のイベント「Japan 2019 参加企画」という事業があり、現在アメリカ各地で合計46のイベントが企画されている。そのうち、文化協会では、展覧会や日本舞踊、能レクチャー公演など現在6つのイベントが在ニューヨーク日本国総領事館の推薦を受けて開催される予定だ。

海外安全対策連絡協議会

在ニューヨーク日本国総領事館には、海外安全対策連絡協議会（海安協）という会議体がある。ニューヨークの治安やテロ情報、日本人の安全対策などについて情報交換を行うために設置されて、日系の団体、メディア、旅行業界など約20の団体が参加して、会合が開催されている。この会に文化協会も入れていただいている。宗教団体としては入れなかったかもしれないが、教育、文化活動に携わっている団体として声をかけていただいたようだ。この会に入るきっかけとなったのは、ニューヨークの西側にあるハドソン川に日本人観光客が入水した母子心中未遂事件があったことによる。この母子は助けられたものの、母親が殺人罪に問われ逮捕されていた。領事館に連絡が入り、邦人援護担当の領事が間に入り、お世話されていた。もし、日本に信頼のおける身元引受人がいれば、釈放することも出来るとのことだった。担当領事は北海道出身だったが、子供の頃、近所に天理教の教会があり、いつも様々な人々を受け入れ世話されている姿を、ふっと思い出したようだ。そして、天理文化協会に連絡が入り、日本の天理教の教会が保証人となり、無事に釈放された。そのことがきっかけとなって、海安協に参加させていただくことになった。北海道の田舎の教会の地道なおたすけ活動が地域の人の心に映り、遠くニューヨークの地まで伝わるのだと思うと感無量になる。ニューヨークに居る私たちも、日々の地道な活動が世界の人々の心に映っていくように夢をいだけながらつとめていきたい。

カンボジア写真展

文化協会がまだソーホー地区にあった頃、カンボジアの写真展が行われた。世界の遺跡を撮影する写真家・井津建郎氏の個展だった。井津氏は、カンボジアのアンコール・ワットを撮影中、地雷で手足を失った子どもたちを目の当たりにし、「写真を撮ることしか出来ない自分でも、何かできないだろうか」と病院建設を決意、そのためのチャリティー展示会だった。展示会の会期中に東京弦楽四重奏団のチャリティー演奏会も行われた。それらのイベントには、当時の小和田恆国連大使夫妻やカンボジアのシソワット大使なども文化協会に来られた。シソワット大使はカンボジア王子でもあり、将来は国王になるかもしれない。カンボジアに天理教が広まる時に何らかの力になってくださったらありがたいことと夢が膨らんだ。井津氏の地道な努力が実り、1999年に「アンコール小児病院」が開院した。現在カンボジアでは天理教が伸びていると聞けが、何らかの繋がりができればと楽しみにしている。

「天理な集い」ニューヨーク版

文化協会では、今後の活動を考えていく場を設けようとのことで、昨年8月から定期的に「天理な集い」が開催されている。これは、昨年6月に中山大亮青年会長の巡教の後に出てきた新しい動きで、文化協会ですらに何が出来るか、若い人も年配の人も一緒になって話し合っていこうという場が誕生した。年齢や立場を超えて将来を語り、信仰の浪漫を共有しながら、ニューヨークの道を盛り上げていこうという動きが始まっている。